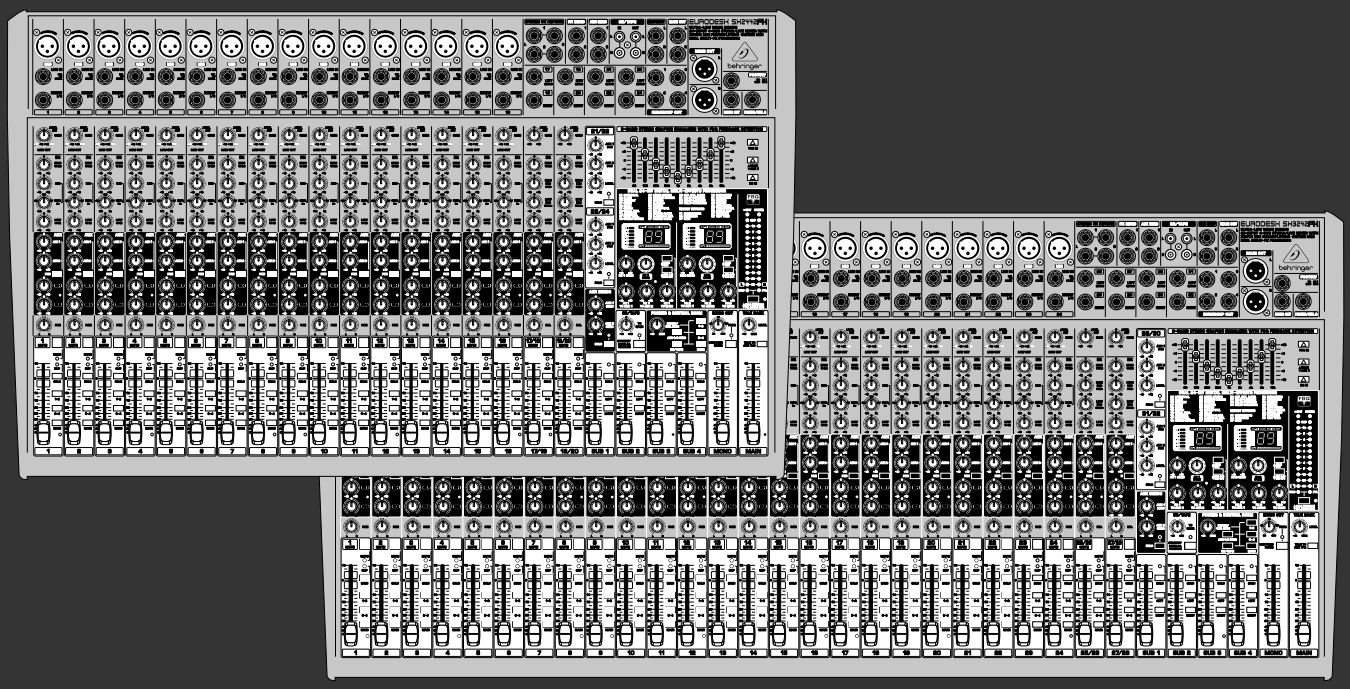
JP



取扱説明書

EURODESK SX3242FX/SX2442FX

Ultra-Low Noise Design 32/24-Input 4-Bus
Studio/Live Mixer with XENYX Mic Preamplifiers,
British EQs and Dual Multi-FX Processor

behringer

JP

目次

ありがとう 2

安全にお使いいただくために 3

法的放棄 3

限定保証 3

1. はじめに 4

1.1 ご使用の前に 4

1.2 本取扱説明書について 4

2. コントロールパネルと接続端子類 4

2.1 モノ入力チャンネル 5

2.2 ステレオチャンネル 6

2.3 ステレオチャンネル 21-24 (SX2442FX) および 29-32 (SX3242FX) 7

2.4 サブグループ 1-4 7

2.5 サブウーハー使用の際のモノ出力セクション 8

2.6 メイン出力セクション 8

2.7 CD / テープ 9

2.8 マスター Aux センド 1 と 2 10

2.9 グラフィック 9 バンドステレオ EQ 10

2.10 エフェクトセクション 10

2.11 リアパネル 11

3. デジタルエフェクトプロセッサー 12

4. 接続例 13

4.1 スタジオセットアップ 13

4.2 ライブでのセットアップ 14

5. 接続とフォーマット 14

6. プリセット 16

7. 技術仕様 18

ありがとう

EURODESK のお買い上げ、まことにありがとうございます。これは新たなスタンダードを築く最先端のパワーミキサーです。あらゆるアプリケーションに対応できる革新的な装置の開発が当社の当初からの目標でした。その結果、幾多の性能を備え、幅広い接続環境とオプションを提供するこのパワーミキサーが誕生したのです。

BEHRINGER は、プロ用のレコーディングスタジオ技術にそのルーツを求める企業です。 当社はこれまで長年にわたり、ライブおよびスタジオで使用できる製品の開発に携わってきました。それはマイクや 19 インチ製品（コンプレッサー、エンハンサー、ノイズゲート、チューブプロセッサー、ヘッドフォンアンプ、デジタルエフェクト機器、DI ボックス等）、モニターおよび PA スピーカー、そしてプロ仕様のライブ / スタジオ用レコーディングミキサーなど多岐にわたります。当社のこれまで培ってきた技術的なノウハウのすべてが、この EURODESK ミキサーに詰め込まれているのです。

JP 安全にお使いいただくために

注意

感電の.恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル（¼" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル）を使用してください。

注意

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

注意

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

注意

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用の前に良くお読みください。

注意

1. 取扱説明書を通してご覧ください。

2. 取扱説明書を大切に保管してください。

3. 警告に従ってください。

4. 指示に従ってください。

5. 本機を水の近くで使用しないでください。

6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使ってください。

7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。

8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. 二極式プラグおよびアースタイプ(三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広くなっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電器技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地（アース）が確保されていることを確認して下さい。

12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるよう手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。

17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いただけません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

法的放棄

ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、MUSIC Group は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。MIDAS、KLARK TEKNIK、TURBOSOUND、BEHRINGER、BUGERA および DDA は MUSIC Group IP Ltd. の商標または登録商標です。© MUSIC Group IP Ltd. 2015 無断転用禁止。

限定保証

適用される保証条件と MUSIC Group の限定保証に関する概要については、オンライン上 music-group.com/warranty にて詳細をご確認ください。

JP

1. はじめに

FBQ フィードバック検知システム

このミキサーに備えられた優れた特徴の一つとなるのは、グラフィックイコライザーに内蔵された FBQ フィードバック検知システムです。この独創的なスイッチはフィードバック周波数を即座に察知し、これを抑制します。問題となる周波数は、LED ディスプレイに点灯によって表示されます。かつては骨の折れる作業だったフィードバック周波数の検出も、今ではこれほど容易に行うことができるのです。

XENYX Mic Preamps

マイク回路にハイ・エンドの XENYX Mic プリアンプを配置し、その高音質と力強さは、高価な外部プリアンプにも匹敵します。

- 130 dB のダイナミックレンジで余裕のヘッドルーム。
- 10 Hz 以下から 200 kHz 以上という帯域幅により、どのような微妙な特色も余すことなく伝えることが可能です。
- 2SV888 トランジスター付きのノイズと歪みを極度に抑えた回路により、自然で透明のある信号の再生をお約束いたします。
- あらゆるマイクへの対応が可能です (60 dB までの増幅および +48 V ファントム電源供給）。
- 24 ビット / 192 khz HD レコーダーのダイナミックレンジをフルに活用することで、妥協のない理想的なオーディオ品質が達成可能です。

「ブリティッシュ EQ」

XENYX シリーズのイコライザーは素晴らしい暖かさと特徴のある音色により、世界中で認められ、伝説になりつつある高品質のイギリス製の回路に基づいて設計されております。さらにこれらのイコライザーを極端なゲインの設定にでも、すぐれた音質特性をお約束いたします。

さらに、EURODESK には、24-bit A/D-D/A コンバーターに加えて、当社が誇る 19 インチマルチエフェクトプロセッサー VIRTUALIZER PRO DSP2024P がもつエフェクトアルゴリズムを備えた 2 基のエフェクトプロセッサーが内蔵されています。そのため、ディレイやコンプレッサー、チューブディストーションといった高品位なエフェクトの数々を備えた計 2 x 99 ものプリセットが利用可能となっています。

このミキサーには最先端のスイッチモード ・ パワーサプライが備えられています。 慣例的な回路とは異なり、このシステムは 100 V から 240 V 間の電圧に自動的に適応するようになっています。 この優れた性能によって、これまでのパワーサプライと比べて非常に効率的な消費電力が達成されています。

1.1 ご使用の前に

1.1.1 出荷

製品は、安全な輸送のために工場出荷時に十分な注意を払って梱包しておりますが、万が一包装ダンボールが破損している場合は、機器の外面に破損がないことをご確認ください。

◊ **万が一機器に破損がある場合は、保証請求権が無効となることを防ぐために、製品を当社へ直接返送せずに、必ず販売代理店および運送会社までご連絡ください。**

◊ **パワーミキサーの使用や運搬を最適に保護するために、ハードケースの使用をお勧めします。**

◊ **機器を保管したり輸送する場合は、破損を防ぐために、必ずオリジナルの梱包箱を使います。**

◊ **機器や包装箱は子供の手の届かない場所に保管してください。**

◊ **梱包材は環境保護に適した方法で廃棄します。**

1.1.2 スタートアップ

十分な換気を確保し、過熱を防ぐために機器は暖房などのそばに設置しないでください。

◊ **ヒューズが焦げた場合は、正しい値のヒューズと交換します。ヒューズの値については「技術仕様」の章をご覧ください。**

電源への接続には付属の常温機器コネクター付き回路ケーブルを使用します。このケーブルは必要な安全基準を満たしています。

◊ **すべての機器が正しく接地されていることを確認します。安全のために、機器や電源回路ケーブルからアース線を取り外したり使用不能にすることは絶対にしないでください。必ず正常な接地線をご使用のうえ、装置を電源網に接続してください。**

◊ **過大な音量は、聴覚障害およびヘッドフォン故障の原因となる恐れがあります。スイッチオン時にミキサーおよびその他の機器からボンという大きなノイズが発生しないよう、パワーアンプ類またはアクティブスピーカーは必ず最後に電源を投入し、使用後は一番最初に電源を切ってください。常に適切な音量での使用を心がけてください。**

接続の際の注意（重要）

◊ **電波の強い放送局や高周波音源の範囲内では、音質が減退する可能性があります。その場合は、送信機と機器の距離を離し、すべての接続にシールドケーブルを使用してください。**

1.2 本取扱説明書について

本取扱説明書は、ユーザーの皆さんが操作部全体の機能について理解できるように、そしてそれと同時に、その詳しい使用方法もわかるように構成されています。また、各機能の関連性がすぐにわかるように、本書での説明は機能ごとにまとめられています。特定のテーマに関するさらに詳しい説明が必要な場合には、当社ウェブサイト (behringer.com) をご覧下さい。製品関連情報ページや ULTRANET 内の用語解説などもあわせてご覧下さい。

2. コントロールパネルと接続端子類

この章では、本ミキサーの各コントローラーに関する説明を行っていきます。すべてのコントローラーおよび接続端子に関する詳細が述べられています。

2.1 モノ入力チャンネル

2.1.1 マイクおよびライン入力

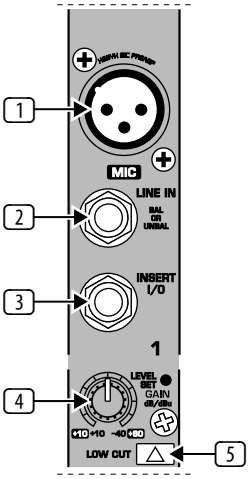


図. 2.1: マイク / ライン入力の接続端子とコントローラー

1 各モノ入力チャンネルには XLR コネクターで使用可能なバランス型マイク入力が備えられています。リアパネルにあるボタンを押して +48 V ファンタム電源を入れ、コンデンサーマイクを使用することも可能です。

◊ **モニタースピーカーから出されるスイッチオン時のノイズを防ぐため、ファンタム電源を作動させる前には必ずオーディオシステムのスイッチをオフにしてください。第 2.11 章「リアパネル」に記載された内容も合わせてご覧下さい。**

2 各モノ入力には 6.3 mm フォンジャックで使用できるバランス型ライン入力も備えられています。もちろんこれらの入力端子はアンバランス型 6.3 mm TS フォンジャックでも使用可能です。

3 この INSERT I/O コネクターは、ダイナミックプロセッサーまたはイコライザーを使用して信号処理する際に使用します。このインサート端子はプリフェーダー、プリ EQ、プリ AUX センドとなっています。

通常ドライ信号に加えられるリバーブなどのエフェクトとは異なり、ダイナミックプロセッサーは信号全体を処理します。そのため、ここでは AUX センド端子を使用するのは良い方法とはいえません。この代わりにシグナルパスを遮断し、ダイナミックプロセッサーおよびイコライザーを送り込むのです。信号はいったん処理されると、この信号が送信されたミキサーのもとの場所に戻ります。信号の遮断は、該当端子が使用されている場合にのみ発生します (6.3 mm ステレオフォンジャック: チップ=信号出力、リング=入力)。インサート端子はすべてのモノ入力チャンネルに装備されています。これらはプリ EQ ダイレクトアウトとして使用することも可能ですが、信号遮断はこの場合発生しません。その場合は 6.3 mm TS フォンジャックをレコーディング機器 / エフェクトプロセッサー側に、ブリッジステレオ 6.3 mm TRS フォンジャックをミキサー側に接続する必要があります (チップとリングは相互接続)。

4 **GAIN** コントローラーは入力ゲインの調節に使用します。音声信号の接続もしくは切断を行う際は、このコントローラーを完全に半時計回りに廻しきってください (レベル 0 状態)。

GAIN の目盛りは 2 つの異なる値範囲を示します:
最初の値範囲は **+10** から **+60 dB** となり MIC 入力に適用され、ここで取り込まれる信号の**ゲイン**を表示します。

二つ目の値範囲は **+10** から **-40 dBu** となりライン入力の**感度**を示します。-10 dBV もしくは +4 dBu といった通常のラインレベル出力をもつ機器に対しては、以下のような設定となります: GAIN コントローラーを半時計回りに絞りきった上で外部機器を接続し、出力レベルを製造メーカーが提示する値に調節します。外部機器に出力レベルディスプレイが備えられている場合は、シグナルピーク値が 0 dB になるよう調節してください。 +4 dBu を使用する場合は、GAIN を若干上げ、-10 dBV の場合はさらにそれ以上上げてください。音声信号を流すと、**LEVEL SET** LED に最適な信号レベルが表示されます。これを参考にして最終的な調節 (ファインチューニング) を行ってください。

5 モノチャンネルには、フロアノイズ (18 dB/oct, -3 dB @ 80 Hz) などの不要な低周波信号をカットするハイスロープな **LOW CUT** フィルターが備えられています。

2.1.2 イコライザー

すべてのモノ入力チャンネルには 3 バンドイコライザーが備えられています。各周波数帯域におけるブースト / カットの最大値は 15 dB です。EQ を中間位置に設定するとニュートラルとなります。

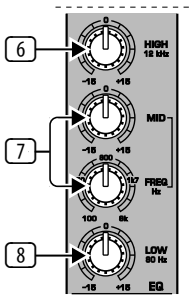


図. 2.2: 入力チャンネルの EQ セクション

6 EQ セクションの **HIGH** コントローラーは、該当チャンネルの高周波帯域を調節する際に使用します。これは設定したカットオフ周波数 (12 kHz) を超えた周波数すべてをブーストまたはカットします。

7 **MID** コントローラーは中音域周波数の調節に使用します。これはセミパラメトリックピークフィルターとなっており、中音域の可変周波数付近の周波数をブースと及びカットします。各 **FREQ** コントローラーを使用して 100 Hz から 8 kHz の範囲で中域周波数を選択することができます。

8 **LOW** コントローラーは、低周波帯域のブーストおよびカットを行います。HIGH フィルター同様、このコントローラーもシェルビングフィルターとなっているため、特定のカットオフ周波数 (80 Hz) を下回るすべての周波数をブースト / カットします。

2.1.3 AUX/FX センド

AUX センドを使用すれば 1 つもしくは複数のチャンネルから信号を取り出し、それを一つのバスに集めることができます。この信号は AUX センド端子に取り出され、例えばアクティブモニタースピーカーや外部エフェクト機器にルートすることができます。エフェクトリターンは処理済の信号用のリターンバスとして使用可能となります。

JP

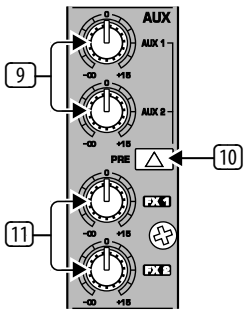


図. 2.3: チャンネル部の AUX/FX センドコントローラー

⑨ 各チャンネルでは **AUX 1** および **AUX 2** コントローラーを使用してチャンネルから送信される AUX 信号の音量を調節できます。全チャンネルから送られる AUX センド信号から構成されるサム信号は、マスター AUX SEND コントローラー (㊿㊶ 参照) で調節でき、これは AUX SEND 出力 (㊿㊷ 参照) で取り出すことができます。両 AUX センドともモノラル、ポスト EQ、ゲインは +15 dB までです。

⑩ **PRE** スイッチを押すことによって、すべての AUX センドをプリフェーダーに設定することができます。この場合、AUX 信号の音量はフェーダー位置によって左右されなくなりますが、完全に独立したモニターミックスを生成することが可能となります。

◊ **外部エフェクト機器を AUX バスの一つを使って操作する場合、チャンネル内のエフェクトボリュームをチャンネルフェーダーで操作できるよう AUX センドはポストフェーダーとなっている必要があります。そうでない場合、たとえチャンネルの音量が完全にゼロになっていても、エフェクト信号が聴こえてしまいます。こういった場合は、PRE スイッチをオフ (押さない状態) にすることをお勧めします。**

⑪ **FX 1** と **FX 2** の各コントローラーは内蔵エフェクトプロセッサーへの直接ルートとなります。さらにこれらは FX SEND 1 および 2 の両出力を介し (AUX SEND 1 および 2 と類似) 外部エフェクト機器用コントローラーとして使用することもできます。内部エフェクトプロセッサーと FX SEND 出力に信号を確実に流すため、該当するエフェクトコントローラーは半時計回りに絞りきらずに (レベル 0 状態)、マスター FX SEND (㊿㊵ 参照) を上げてください。エフェクトバスはポストフェーダーとなっています。

◊ **第 2.10 章「エフェクトセクション」および第 3 章「デジタルエフェクトプロセッサー」も合わせてご参照ください。**

2.1.4 モノチャンネルフェーダーとその他のコントローラー

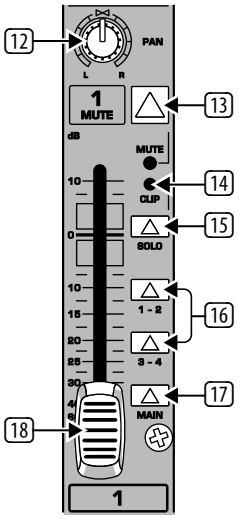


図. 2.4: チャンネルフェーダー、パンコントローラー、ミュートボタン等

⑫ **PAN** コントローラーを使用してステレオフィールド内のチャンネル信号位置を調節できます。さらにチャンネル信号をルートするサブグループの決定が行えます (第 2.4 章参照)。

⑬ **MUTE** スイッチでチャンネル信号の切断またはミュートができます。つまりこれによってチャンネル信号はメインミックス信号の一部ではなくなるというわけです。同時に、ポストフェーダーに設定された該当チャンネルの AUX バスはミュートされます。一方、プリフェーダーモニターバスは操作可能となります。

⑭ チャンネルがオーバーロードすると **CLIP** LED が点灯します。点灯した場合は、GAIN コントローラーを使用して入力ゲインを下げてください。この LED は **SOLO** スイッチでソロ機能を起動させた際にも同様に点灯します。

⑮ チャンネル信号をソロバス (ソロインプレース) または PFL バス (プリフェーダーリッスン) にルートする際は、この **SOLO** スイッチを使用してください。これによってメイン出力信号に影響を与えずにチャンネル信号をモニターすることができます。モニター信号はこの時パノラマコントローラーおよびチャンネルフェーダー (SOLO/PFL スイッチ ㊵ の位置に左右されます) のプリ段階 (PFL 、モノ) または、ポスト段階 (ソロ、ステレオ) で取り込むことができます。

⑯ **SUB** スイッチは信号を該当するサブグループへとルートします。この EURODESK には 4 つのサブグループ (1-2 および 3-4) があります。入力チャンネル (⑫ 参照) の PAN コントローラーを使えば、信号をどちらのサブグループにルートするかを決定することができます (左位置 1 または 3。右位置 2 または 4)。

⑰ **MAIN** スイッチは信号をメインミックスにルートします。

⑱ チャンネルフェーダーは、メインミックス (もしくはサブミックス) の一部としてのチャンネル信号レベルを調節します。

2.2 ステレオチャンネル

2.2.1 チャンネル入力

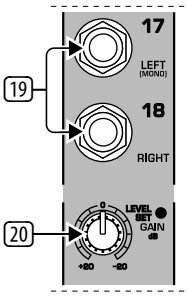


図. 2.5: ステレオチャンネル入力

⑲ 各ステレオチャンネルには 2 つのバランス型ラインレベル入力が 6.3 mm フォンジャックでそれぞれ左 / 右に備えられています。左側の端子のみを使用すれば、各チャンネルともモノ信号を処理することが可能です。

⑳ すべてのステレオチャンネルには、ゲイン調節用の **GAIN** コントローラーが備えられています。調節可能範囲は、+20 ～ -20 dB です。これによって入力レベルをラインレベルに適用させることができます。

2.2.2 ステレオチャンネルイコライザー

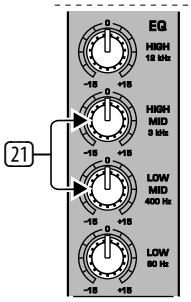


図. 2.6: ステレオチャンネルイコライザー

ステレオチャンネルにはもちろんステレオイコライザーが備えられています。HIGH および LOW フィルターのフィルタータイプおよびカットオフ周波数はモノチャンネルのものと同一です。ステレオチャンネルには、1 つのセミパラメトリック中音域バンドの代わりに、固定中音域周波数 (3 kHz と 400 Hz) をもつ 2 つの独立した中音域バンド (㉑ HIGH MID と LOW MID) が備えられています。モノイコライザーに比べ、ステレオイコライザーはステレオ信号の周波数レスポンスの処理に好まれて使用されます。2 つのモノイコライザーでは、左右両チャンネルのセッティングの違いによって問題が生じる場合があります。

2.2.3 ステレオチャンネル AUX/FX センドバス

基本的には、ステレオチャンネルの AUX および FX バスもモノチャンネルのものと同様です。AUX バスは常にモノラルとなっているため、ステレオチャンネルからの信号は AUX バスにルートされる前にモノラルにミックスされます。

2.2.4 ステレオチャンネルフェーダーとその他のコントローラー類

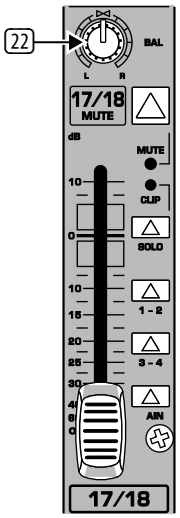


図. 2.7: チャンネルフェーダー、バランスコントローラー、ミュートスイッチ等

㉒ この **BAL**(ANCE) コントローラーは、モノチャンネル部の PAN コントローラーと同様の働きをします。このコントローラーは、左 / 右入力信号がステレオメインミックスバスにルートされる前の相対音量を調節します。

ステレオチャンネル部のその他のコントローラーは、モノチャンネル部の各該当コントローラーと同様の機能をします。

◊ **ご注意ください: SUB スイッチを使用してステレオチャンネルをサブグループへルートする場合は、BAL コントローラーを事前にミドルポジションに設定してください。これによって信号は 2 つのサブグループに送り込まれ、ステレオの状態で保たれます。**

2.3 ステレオチャンネル 21-24 (SX2442FX) および 29-32 (SX3242FX)

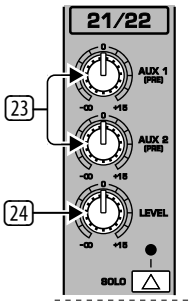


図. 2.8: 追加ステレオチャンネル

EURODESK には、ひとつの AUX センドセクション (㉓ AUX 1 と AUX 2) と LEVEL コントローラー ㉔ のみで構成されている 2 つのステレオチャンネルが備えられています。これらのチャンネルでは、AUX バスはプリフェーダーで接線されているため、モニタリングの際に特に便利となります。ルーティングスイッチが装備されていないので、信号は常にメインミックスに送り込まれます。通常のステレオチャンネル同様、左右両チャンネルに 6.3 mm フォンジャックで使用可能な 2 つのラインレベル入力端子と SOLO スイッチが備えられています。

CD/TAPE 入力部同様 (㊾ 参照)、追加ステレオチャンネルに CD プレーヤーやテープデッキなどを接続し、プレイバック音源を流すこともできます。

2.4 サブグループ 1-4

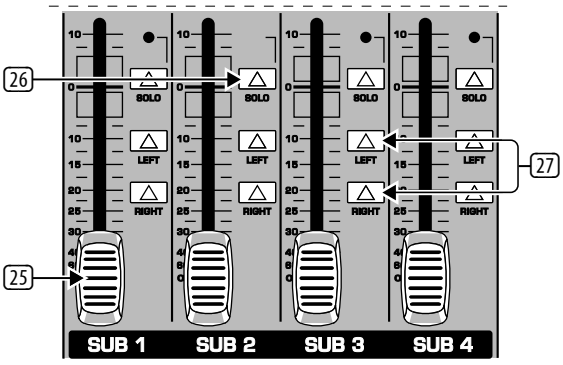


図. 2.9: サブグループ 1 - 4

EURODESK には 4 つのサブグループがあるため、複数の入力信号からモノまたはステレオミックスを作成することが可能となります。サブグループはひとつ (モノ) またはふたつ (ステレオ) のサブグループフェーダーによってコントロールされます。さらに、サブグループ出力をテープセンドとしてマルチトラックレコーダーに接続することも可能です。

㉕ サブグループフェーダーは、サブグループ出力端子 (㉘ 参照) におけるサブグループ信号の音量を調節します。ルーティングスイッチ (㉗ 参照) の位置によっては、メインミックス内のサブグループボリュームを調節することも可能です。

JP

㉖ **SOLO** スイッチは、サブグループ信号をソロバス (ソロインプレース) または PFL バス (プリフェーダーリッスン) にルートします。これによってメイン出力またはサブ出力信号に影響を与えることなくサブグループ信号のモニターが可能となります。モニターされる信号は、SOLO/PFL スイッチ (㊵) の位置に応じて、プリ (PFL 、モノ) もしくはポストサブグループフェーダー (ソロ、ステレオ) で取り込まれます。SOLO スイッチを押すと SOLO LED が点灯します。

㉗ サブグループ信号をメインミックスにルートする際は、サブグループのルーティングスイッチを使用します。これによって、左ステレオ側 (**LEFT** を押す)、右ステレオ側 (**RIGHT** を押す) または両側 (LEFT と RIGHT の両方を押す) に信号を送り込むことができます。例えば、サブグループ 1 と 2 を使ってステレオサブミックスを作成した場合は、グループ 1 を左ステレオへ、グループ 2 を右ステレオへ送り、正しいステレオポジションが得られるように気をつけて下さい。モノサブミックスの作業をただひとつのサブグループで行う場合は、信号をメインミックスの左右ステレオサイドへ送り込み、両サイドから信号が聞こえるようにします。

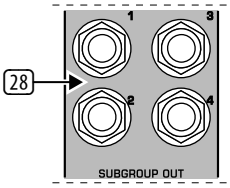


図. 2.10: サブグループ出力 1 - 4

㉘ これら 4 つの **SUBGROUP OUT** では各サブグループ信号が取り出されます。マルチトラッキングの際は、マルチトラックレコーダーの入力端子とこの出力端子を接続してください。(第 4.1 章「スタジオセットアップ」参照)

2.5 サブウーハー使用の際のモノ出力セクション

追加モノ出力を使用すればメインミックス信号をモノラルで取り出し、外部パワーアンプに接続することができます。調節可能なローパスフィルターを使って信号を低周波域に限定することで、サブウーハ信号が完璧に取り出されます。この際、信号はモノラルとなります。低周波は音波長のために人間の耳には聞こえません。そのため信号をステレオとして取り出すことは意味をなしません。

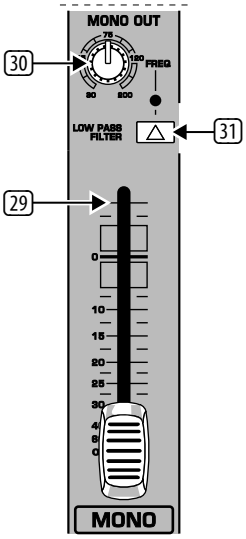


図. 2.11: モノ出力フェーダーとローパスフィルター

㉙ **MONO** フェーダーは、MONO OUT で取り出される信号の音量調節を行います (㉜ 参照)。

㉚ **FREQ** コントローラーは、ローパスフィルター (30 - 200 Hz) のカットオフ周波数を設定する際に使用します。フィルター起動時は、ここで設定したスレショルド値を超える周波数はカットされます。

㉛ この **LOW PASS FILTER** スイッチで、フィルター機能を起動させます (LED が点灯)。

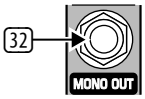


図. 2.12: モノ出力接続端子

㉜ この **MONO OUT** 端子に流れるモノ信号は、パワーアンプやアクティブスピーカーの入力端子に接続することができます。この出力端子をモニターバスとして使用し、ヘッドフォンアンプを接続することも可能です。その場合はもちろん、信号は LOW PASS FILTER で制限されていてはなりません。

2.6 メイン出力セクション

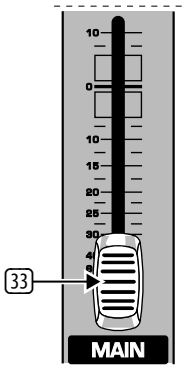


図. 2.13: メイン出力フェーダー

㉝ この正確な **MAIN** フェーダーを使って、メインミックス信号の出力レベルをコントロールすることができます。

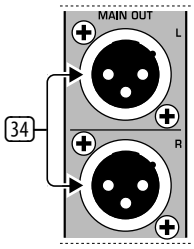


図. 2.14: XLR メイン出力コネクター

㉞ **MAIN OUT** は +4 dB のバランス型 XLR コネクターとなっており、メインミックス信号が取り出されます。

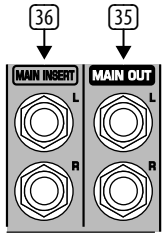


図. 2.15: 6.3 mm メイン出力端子とメインインサート

㉟ 追加 **MAIN OUT** の 6.3 mm フォンジャック端子でも同様にメインミックス信号が取り出されます。

㊱ チャンネルインサートとほぼ同様に、**MAIN INSERT** コネクターも、ミックス信号の処理のためにダイナミックプロセッサーやイコライザーへ接続することが可能となっています。MAIN INSERT は、MAIN OUT (XLR および 6.3 mm フォンジャック)、MONO OUT (㉜ 参照)、さらに PHONES/CONTROL ROOM セクションの MAIN スイッチが入っていれば PHONES/CTRL ROOM 出力にも適用されます (参照)。

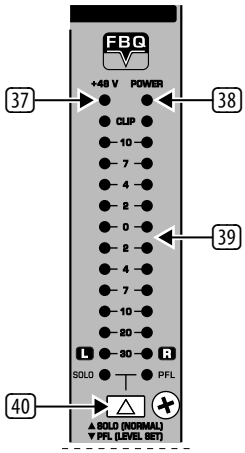


図. 2.16: レベルメーター

㊲ ファンタム電源がオンになると、赤色の **+48 V** LED が点灯します。ファンタム電源は、コンデンサーマイクの使用時に必要とされるもので、ミキサーのリアパネルにあるスイッチで起動させることができます。

㊳ ミキサーに電源が入るとこの **POWER** LED が点灯します。

㊴ 出力信号レベルは、この精確なレベルメーターに表示されます。例えば、入力チャンネル部の SOLO スイッチを押すと、このメーター上に信号レベルがプリフェーダー (PFL) もしくはポストフェーダー (POST) で表示されるわけです。これは SOLO/PFL スイッチの位置に左右されます (㊵ 参照)。PFL モードでは、信号が常にモノラルとなるため、左のディスプレイのみにレベルが表示されます。

㊵ **SOLO/PFL** スイッチは、SOLO スイッチを押した際 (LED が点灯) に信号がプリ (PFL) またはポスト (SOLO) フェーダーのどちらでモニターされるかの設定をします。レベルメーターには該当信号が表示されます (㊴ 参照)。GAIN コントローラーを使用して信号を調節した場合は、表示されたレベルがチャンネルフェーダーの位置に左右されないよう PFL モードを選択することをお勧めします。

2.6.1 トークバック機能

EURODESK に備えられたトークバック機能を使えば、レコーディングルームまたはステージにいるミュージシャンとのコミュニケーションが可能となります。トークバック信号は AUX SEND 出力に取り込まれるため、モニター / ヘッドフォンミックスの際に特に便利となります。

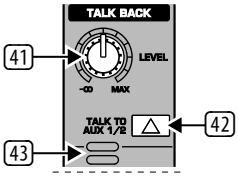


図. 2.17: トークバック機能

㊶ **LEVEL** コントローラーは AUX 1/2 出力端子に取り込まれるトークバック信号の音量調節を行います。

㊷ この **TALK TO AUX** 1/2 スイッチを使用して、ビルトイン型のトークバックマイクを起動させます。この信号は AUX SEND 端子 1 と 2 に送り込まれます。話している間は、このスイッチを押しつづけてください。

㊸ これがビルトイン型のトークバックマイクです。

2.6.2 フォーンとコントロールルーム

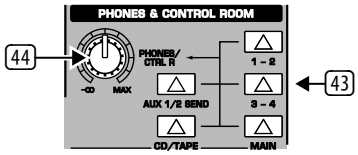


図. 2.18: Phones/Control Room セクション

㊹ **PHONES/CTRL R** コントローラーは、PHONES/CTRL ROOM OUT 端子に接続されたヘッドフォンの音量調節を行います (㊻ 参照)。アクティブモニタースピーカーまたはパワーアンプをここに接続している場合は、モニターの音量もこれで調節できます。

㊺ これらのスイッチによって PHONES/CTRL ROOM 端子に送り込む信号を選択することができます。利用可能なソースは、MAIN、CD/TAPE、AUX 1/2 およびサブグループ 1-2 と 3-4 です。

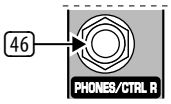


図. 2.19: Phones/Control Room 出力

㊻ ヘッドフォンまたはモニタースピーカーをこの **PHONES/CTRL ROOM OUT** の 6.3 mm TRS フォンジャックに接続してください。

◊ **あまりにも高音で使った場合、聴覚への障害やヘッドホン及び / 或いはラウドスピーカーを破損する原因となりますので、ご注意下さい。ミキサーやその他の装置のスイッチオンやスイッチオフ時のノイズを避けるために、パワーアンプやアクティブスピーカーは常に最初にスイッチを入れ、最後にスイッチを切って下さい。適切な音量での使用を心がけてください。**

2.7 CD / テープ

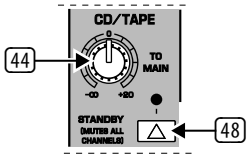


図. 2.20: CD / テープ

㊼ 例えば CD プレーヤーを CD / テープ入力端子に接続した場合 (㊾ 参照)、メインミックスの音量は **TO MAIN** コントローラーで調節することができます。

㊽ **STANDBY** スイッチを押すと、すべての入力チャンネルはミュートされ、CD / テープ信号のみがメインミックスにルートされます。これによって、休憩時やセットチェンジ時にマイクがノイズや干渉を拾い、PA システムに流してしまうことを防ぐことができます。場合によってはスピーカーのダイアフラムを破壊してしまうこともあります。このスイッチの特に優れた特徴は、メインミックスフェーダーを調節することなく、CD / テープ入力 (㊾ 参照) からの CD 音源をプレイバックできることです。ミュートされたチャンネルのフェーダーを下げる必要ももちろんありません。

JP

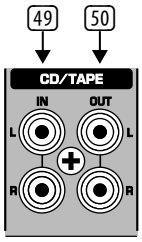


図. 2.21: CD / テープ接続端子

49 これは CD プレーヤーやテープデッキなどラインレベル信号接続用の **CD/TAPE INPUT RCA** ピンプラグ端子です。信号音量は TO MAIN コントローラーで調節してください。

50 **CD/TAPE OUTPUT RCA** ピンプラグ端子はステレオメインミックス信号を取り込みます。ミックス音源のレコーディングの際は、ここにテープデッキや DAT レコーダーを接続してください。信号は、フェーダーの動きに左右されないようプリフェーダーで取り込まれます。

2.8 マスター Aux センド 1 と 2

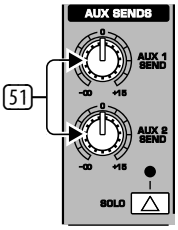


図. 2.22: マスター Aux センド

51 これはマスター **AUX SEND** コントローラー 1 と 2 です。これによって該当する AUX センド端子 (52 参照) の音量レベルを調節することができます。これを使用することで、入力チャンネル部のすべての AUX 1 または AUX 2 信号のミックスをコントロールできます。SOLO スイッチは、AUX SEND セクションにも備えられています。

図. 2.23: マスター Aux センド出力

52 この AUX SEND 出力 1 と 2 でマスター AUX SEND 信号を取り出し、外部エフェクト機器やモニタースピーカーにルートすることができます。エフェクト信号は、例えば STEREO FX RETURN 入力端子 (67 参照) または特定の入力チャンネルを介してリターンさせることも可能です。

2.9 グラフィック 9 バンドステレオ EQ

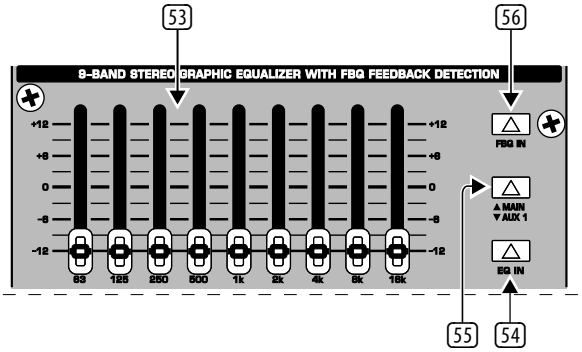


図. 2.24: グラフィックステレオイコライザー

53 EURODESK には、メイン信号もしくは AUX 1 信号を処理するグラフィック 9 バンドステレオ EQ が備えられています。サウンドをルーム音響に適応させる際に使用します。

54 この **EQ IN** スイッチで、イコライザーを起動させます。フェーダー LED が点灯します。

55 **MAIN/AUX 1** スイッチによって、メイン信号または AUX 1 信号のどちらをイコライザーで処理するかを決定します。

56 **FBQ IN** スイッチを押すと、FBQ フィードバック検知システムが作動します。フィードバックの原因となる周波数は明るく点灯したフェーダー LED に表示されます。その他の周波数 LED は薄暗します。問題となる周波数帯域のレベルを下げ、フィードバックを抑制してください。

◊ **スイッチが AUX 1 の位置にある場合は (55 参照)、EQ フェーダー LED には MAIN と AUX 1 の信号が同時に表示されます。しかし、そのうちいずれかの信号でフィードバックが発生した場合、フィードバックを起こしていない信号は徐々にミュートされ、これによってフィードバック信号をより明確に検出することができます。もし MAIN 信号にフィードバックが発生した場合、スイッチ 55 を MAIN に切り替え、その後 9 バンド EQ を使ってフィードバックを取り除いてください。**

2.10 エフェクトセクション

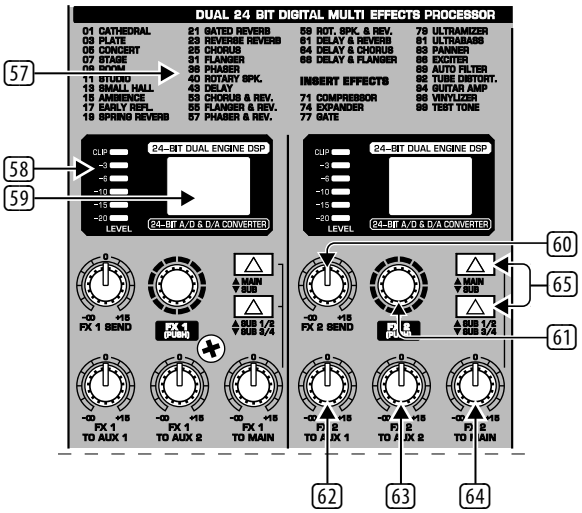


図. 2.25: デジタルエフェクトモジュール

57 すべてのマルチエフェクトプリセットの一覧がここに記載されています (第 3 章の「デジタルエフェクトプロセッサー」もご参照下さい)。

58 エフェクトプロセッサーの入力信号がこの FX LED レベルメーターに表示されます。クリップ LED は、信号超過時にのみ点灯するよう設定してください。常にクリップ LED が点灯している場合は、エフェクトプロセッサー信号がオーバーロードしており、歪みの原因となります。

59 この **Effect** ディスプレイには、現在選択中のプリセットが表示されます。

60 このマスター **FX 1** (または **2**) SEND コントローラーで、各 FX センド端子 (66 参照) および内蔵エフェクトプロセッサーの入力部に流される全ての FX センド信号の音量を調節できます。入力チャンネルからの全ての FX 1/FX 2 信号のマスター信号をコントロールする際に使用します。どちらの FX SEND コントローラーも使用していない場合は、エフェクトプロセッサーに入力信号は流れません。

61 **FX 1** (または **FX 2**) コントローラーを使用してエフェクトプリセットを選択してください。コントローラーを軽く押す (プッシュ) と、選択したエフェクトが決定され、起動します。

62 **FX 1** (または **2) TO AUX 1** コントローラーによって、内蔵エフェクトプロセッサー (FX 1 または FX 2) のエフェクト信号を AUX 1 モニター信号へミックスすることができます。このためには事前にエフェクトプロセッサーに信号が流される必要があります。つまりチャンネルセクションの FX コントローラーおよび FX SEND コントローラーが使用され、フェーダーが開放されていなければなりません。

63 これは **FX 1** (または **2) TO AUX 2** コントローラーで、エフェクトプロセッサーのエフェクト信号を AUX 2 モニター信号にミックスさせることができます。詳細は をご参照ください。

64 **FX 1** (または **2) TO MAIN** コントローラーを使って、エフェクト信号をメインミックス、もしくはサブグループ 1 と 2 (もしくは 3 と 4) にルートすることができます (コントローラー上のセレクタースイッチの位置で変化します。65 参照)。コントローラーを左に絞りきると、エフェクト信号は聞こえなくなります。ここでもチャンネルセクションの FX コントローラーおよび FX SEND コントローラーが使用され、フェーダーが開放されていなければなりません。

65 この選択スイッチによって、エフェクト信号をメインミックスあるいはサブグループ 1-2 もしくは 3-4 にルートすることができます。上部の **MAIN/SUB** スイッチが押されていない場合、エフェクト信号はメインミックスに流されます。下方にある **SUB 1/2 / SUB 3/4** スイッチはこの場合機能しません。しかし、上部のスイッチを押すと (SUB)、下部のスイッチはエフェクト信号をサブグループ 1 と 2 (SUB 1/2) または 3 と 4 (SUB 3/4) のどちらにルートするかを決定します。

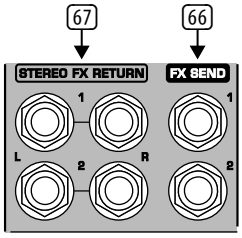


図. 2.26: FX センドとリターン接続端子

66 **FX SEND 1** と **2** 端子ではさらにマスター FX 信号が取り出されます。これは例えば外部エフェクト機器の入力部と接続できます。この時、信号は「ドライ」となります。エフェクトプロセッサーからのエフェクト信号は加わりません。

67 STEREO **FX RETURN** 入力 **1** と **2** を使用して、外部エフェクトプロセッサーからのエフェクト信号をリターンさせ、それをメインミックスに加えることができます。

図. 2.27: フットスイッチ接続

68 この **FOOTSW**(ITCH) コネクターに標準的なデュアルフットスイッチを接続すれば、FX 1 または FX 2 を自由に切り替えることが可能となります。

2.11 リアパネル

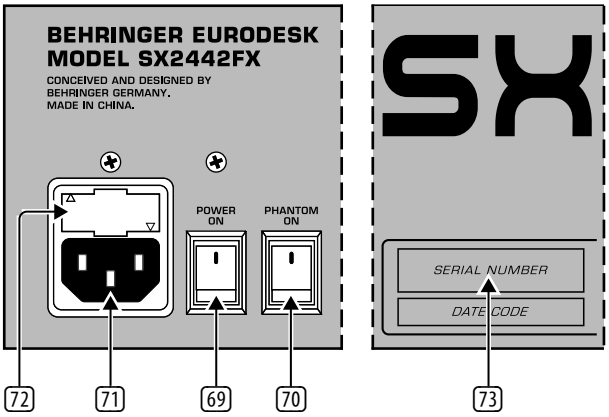


図. 2.28: EURODESK のリアパネル

69 この **POWER** スイッチで装置に電源を投入します。このスイッチは、装置を主電源につなげるまで「オフ」の状態になっていることをご確認ください。

◊ **ご注意ください: この POWER スイッチを切っただけでは装置の電源が完全に切れたことにはなりません。本体を主電源から切り離す際は、メインコードのプラグを引き抜いてください。装置を設置する際は、この電源ケーブルが損傷のない完全な状態であることを必ずご確認ください。長期間装置を使用しない場合は、主電源からコンセントを抜いて下さい。**

70 この **PHANTOM** スイッチで、モノチャンネルの XLR コネクターにコンデンサーマイク使用時に必要となるファンタム電源を供給することができます。ファンタム電源が起動すると、この +48 V LED (37 参照) が点灯します。ダイナミックマイクの使用もバランス接続されている限りは可能となります。詳しくは、マイク製造メーカーまでお問い合わせください。

71 電源接続には標準型 IEC ケーブルを使用してください。適切な電源ケーブルは製品に付属されています。

72 ヒューズホルダー / 電圧設定: 装置を電源に接続する前に、電圧の表示が供給電圧と同じであることを確認してください。ヒューズ交換の際には、必ず同じタイプのものを使用してください。詳しい値は、第 6 章「テクニカルデータ」をご参照ください。

73 **シリアルナンバー。**

JP

3. デジタルエフェクトプロセッサー

DUAL 24-BIT DIGITAL MULTI-EFFECTS PROCESSOR

01 CATHEDRAL	21 GATED REVERB	59 ROT. SPK. & REV.	79 ULTRAMIZER
03 PLATE	23 REVERSE REVERB	61 DELAY & REVERB	81 ULTRABASS
05 CONCERT	25 CHORUS	64 DELAY & CHORUS	83 PANNER
07 STAGE	31 FLANGER	66 DELAY & FLANGER	86 EXCITER
09 ROOM	36 PHASER		89 AUTO FILTER
11 STUDIO	40 ROTARY SPK.	**INSERT EFFECTS**	92 TUBE DISTORT.
13 SMALL HALL	43 DELAY		94 GUITAR AMP
15 AMBIENCE	53 CHORUS & REV.	71 COMPRESSOR	96 VINYLIZER
17 EARLY REFL.	55 FLANGER & REV.	74 EXPANDER	99 TEST TONE
19 SPRING REVERB	57 PHASER & REV.	77 GATE	

図. 3.1: 全エフェクトプリセットの一覧

99 種の一流プリセット

マルチエフェクトプリセットの一覧です。内蔵されたエフェクトプロセッサーでは、リバーブ、コーラス、フランジャー、ディレイやその他のコンビネーションエフェクトなど、当社の 19 インチエフェクトプロセッサー VIRTUALIZER PRO DSP2024P で既に定評のある多様な標準エフェクトを提供しています。チャンネル部の FX コントロールや FX SEND コントローラーを使ってエフェクトプロセッサーに信号を流すことができます。デジタルステレオエフェクトプロセッサーを内蔵しているため、外部接続を必要とせず、そのためハムノイズやレベル相違などの問題を回避できます。これによって操作も大変楽になっています。

PARALLEL FX

1 ~ 70 のエフェクトプリセットで、典型的な「多重ミックスエフェクト」が実現します。FX TO MAIN 1 (または 2) コントローラーを廻すと、(ドライな) チャンネル信号とエフェクト信号のミックス信号を生成できます。両信号のミックスバランスは、チャンネルフェーダーおよび FX TO MAIN 1/2 コントローラーで調整します。

これはエフェクト信号を AUX 1 (または 2) モニターミックスに加える際にも適用されます。ただし、この場合のミックスは、チャンネル部の AUX 1 または 2 コントローラーと FX TO AUX 1 または 2 コントローラーによって調節されます。この場合、エフェクトプロセッサーには FX 1 か 2 コントローラーを使って、チャンネルからの信号が流されていなければなりません。該当チャンネル部の PRE スイッチが押されているかどうかご確認ください。スイッチが押されていない場合、AUX バスはポストフェーダーに設定され、AUX モニター信号の音量はチャンネルフェーダーに左右されてしまいます。

INSERT FX (チャンネルはミュート状態)

エフェクトプリセット 71 番以上は、信号全体を処理するものですので、「多重ミックス」エフェクトと混合しないようお気をつけ下さい。インサートプリセットを使用したい場合は、該当チャンネルを全てのバスから独立させ (SUB ボタンと MAIN ボタンは押しません)、エフェクト信号のみをメインミックスにルートするようにしてください (FX 1/2 コントローラー、FX SEND 1/2 コントローラー、および FX TO MAIN 1/2 コントローラー)。

◊ **該当チャンネルのチャンネルフェーダーはアクティブの状態となり、FX コントローラーを併用することで内蔵エフェクトプロセッサーへ送られる信号レベルをコントロールします。**

JP

4. 接続例

4.1 スタジオセットアップ

以下の接続例は 4 トラックレコーディングにおけるセットアップです。この場合、ドラムとベースはふたつのサブグループにまとめられ、サブグループ出力を介して MTR の 2 つのトラック上にルートされます。残りの 2 つのサブグループは、ギター、キーボード (ステレオチャンネル) と 2 つのヴォーカルパートを残りの 2 トラック上でレコーディングするために使用します。レコーダーの 4 つのリターンパスは、EURODESK の 4 つの独立モノ入力チャンネルと接続します。内蔵されたコンプレッサーはベースに使用します。入力チャンネルが全てのバスから独立しているのはこれが理由です (SUB と MAIN スイッチは押さないで下さい)。ベース信号は内蔵エフェクトプロセッサーから該当するサブグループへ直接ルートされます (FX TO MAIN コントローラー)。この場合、FX 1 セクションの MAIN/SUB スイッチは押された状態となりますが、SUB 1/2 SUB 3/4 ボタンは押さないで下さい。

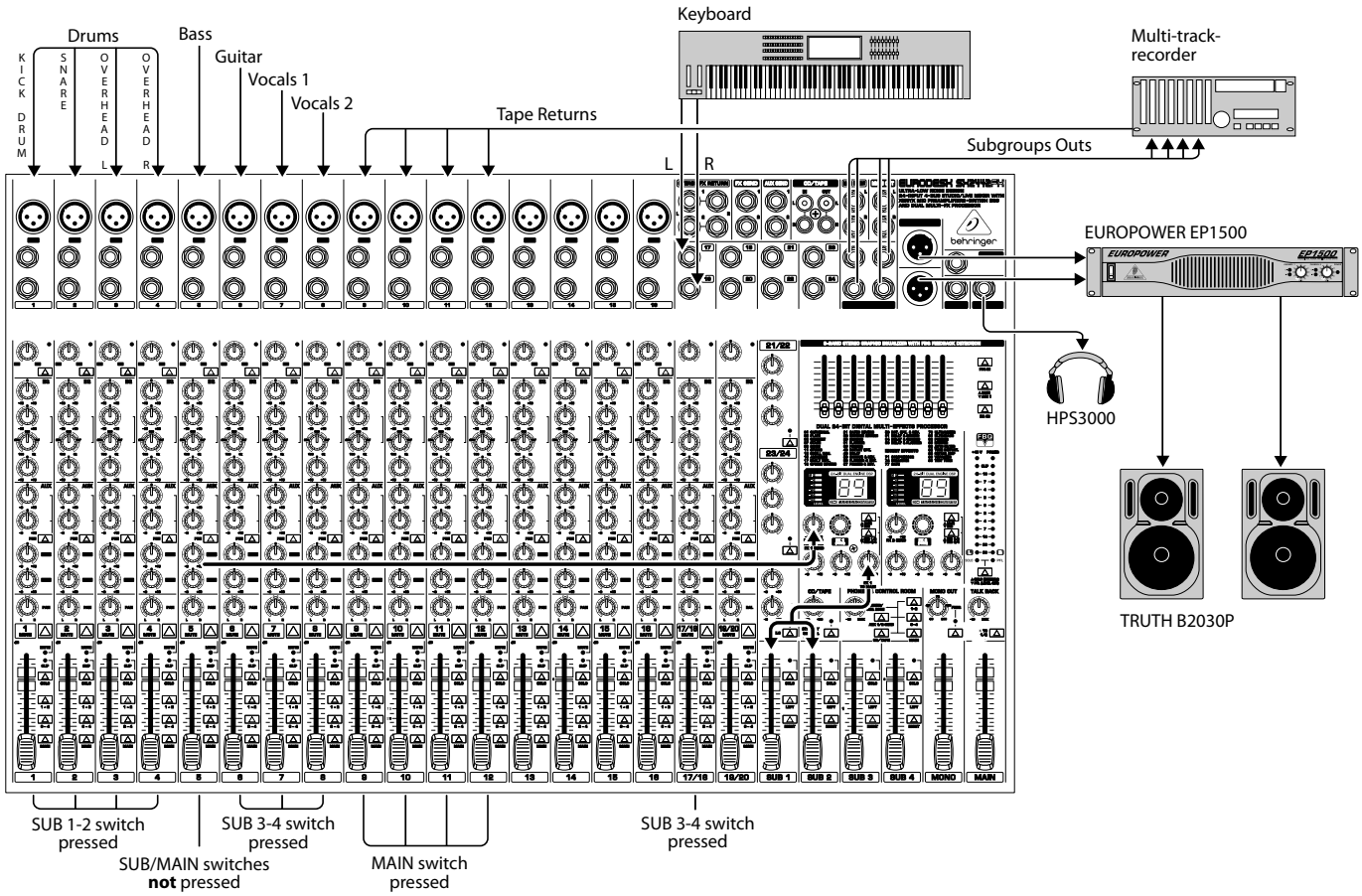


図. 4.1: スタジオでの使用におけるミキサーの接続例

◊ **レコーダーのリターンに接続されたチャンネル部のサブグループルーティングスイッチ (1-2 および 3-4) は決して押さないようにご注意ください。レコーディング開始と同時にフィードバックがループ発生してしまいます。入力チャンネル部の MAIN スイッチのみを押し、テープリターン信号がメイン出力とミキサーの Phones/CTRL Room 出力にルートされるようにしてください。**

JP

4.2 ライブでのセットアップ

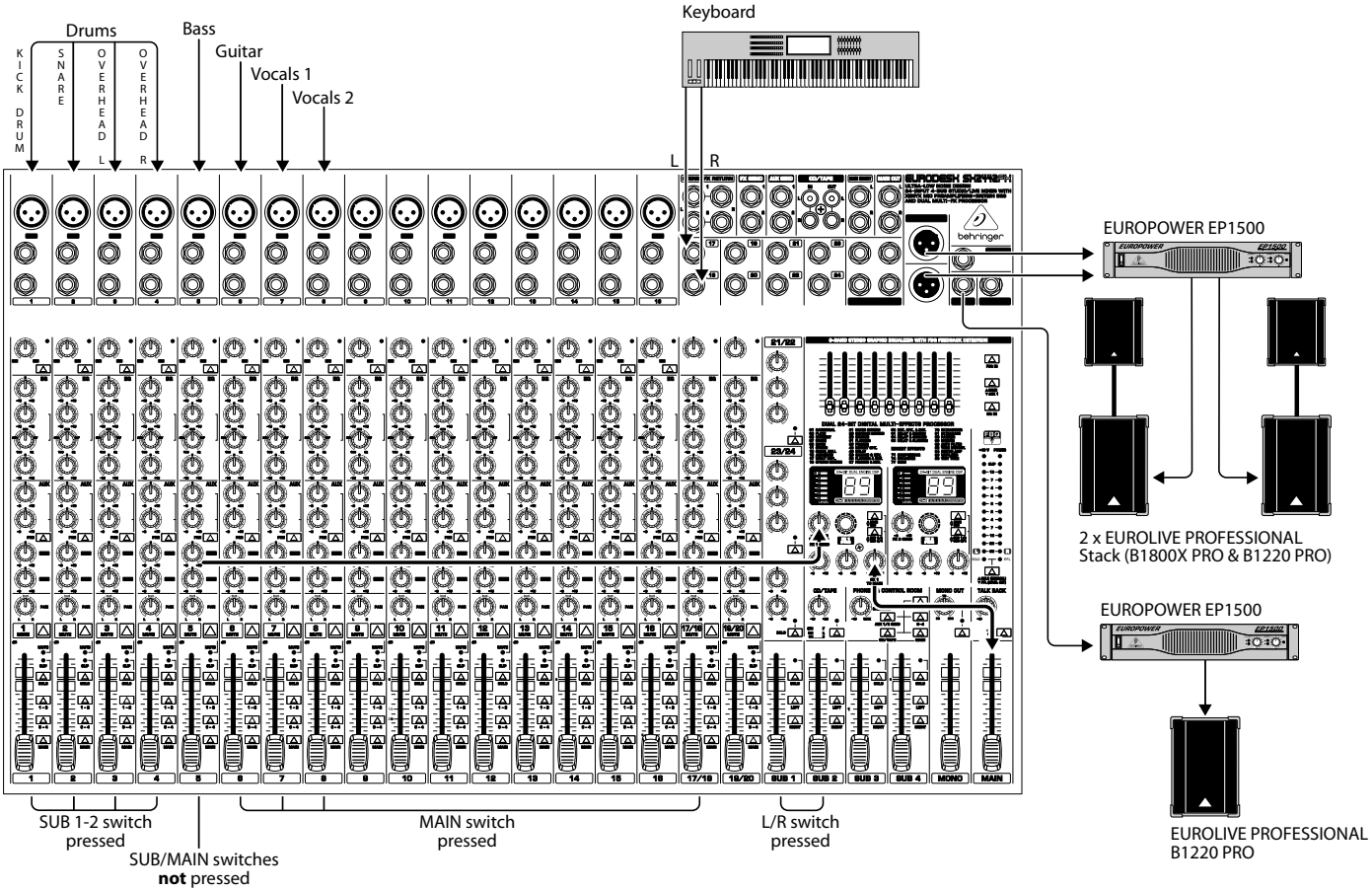


図. 4.2: ライブにおけるミキサーの接続

この接続は、典型的なライブでのセットアップ例です。前の例と同様、4 本のドラムマイク、ベース、キーボード (ステレオチャンネル)、ギター、2 本のヴォーカルマイクが接続されています。4 つのドラムチャンネル (キック、スネア、トップシンバル左、トップシンバル右) は 2 つのサブグループでミックスダウンされ、その後メインミックスにルーとされます。こうすることで、メインミックス内のドラム信号の音量を 2 つのサブグループフェーダーを使用して随時調節することが可能となるのです。ここでも内蔵コンプレッサーはベースに用いられます。該当する入力チャンネルは、その他の全てのバスから独立しており、ベース信号は内蔵エフェクトプロセッサーからメインミックスバスに直接ルートされます。MAIN/SUB スイッチはこの場合押さないで下さい。SUB 1/2 SUB 3/4 スイッチの位置は、ここでは関係ありません。

5. 接続とフォーマット

BEHRINGER EURODESK の入 / 出力端子は、6.3 mm アンバランス型 TS モノラルフォンプラグ仕様となっています。モノおよびステレオチャンネルのバランス型ライン入力とメイン出力端子は例外となります。すべての入 / 出力端子はバランス型としてもアンバランス型としても機能します。テープ入 / 出力は、ステレオ RCA ピンプラグ仕様となっています。

◊ **EURODESK の設置は、必ず専門家が行うようにしてください。設置および操作の際には、本装置を完全な状態で作動させ、静電気の放電などによる悪影響を防ぐため、作業者の設置を十分に確保してください。**

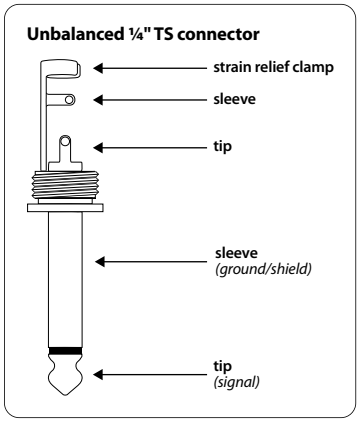


図. 5.1: 6.3 mm TS コネクター

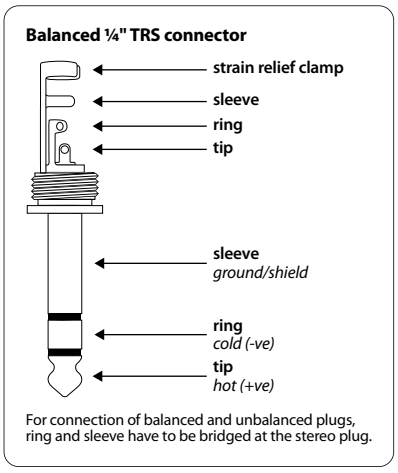


図. 5.2: 6.3 mm TRS コネクター

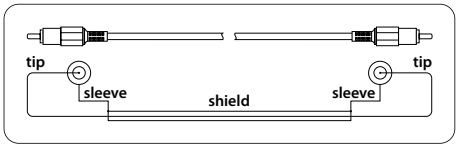


図. 5.3: RCA ピンプラグ

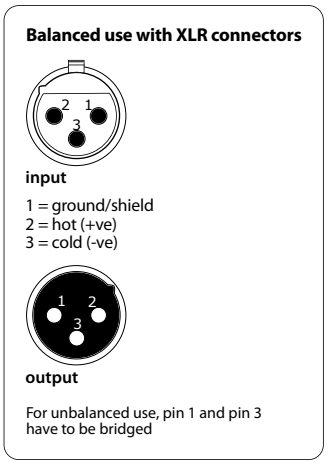


図. 5.4: XLR コネクター

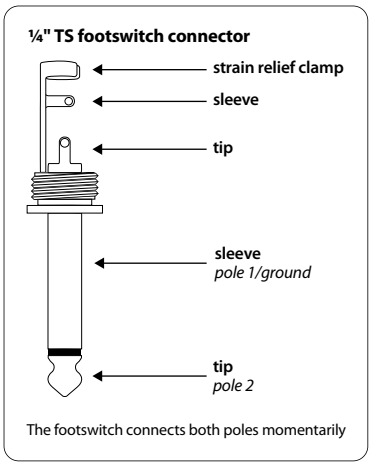


図. 5.5: フットスイッチ用 6.3 mm TRS モノラルフォンプラグ

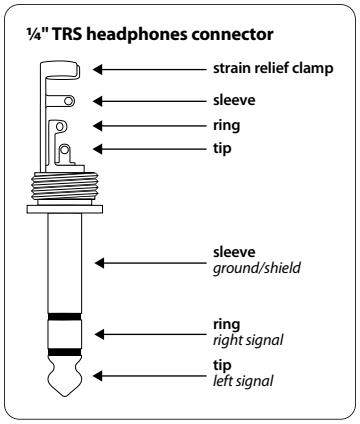


図. 5.6: 6.3 mm ステレオ ・ ヘッドフォンコネクター

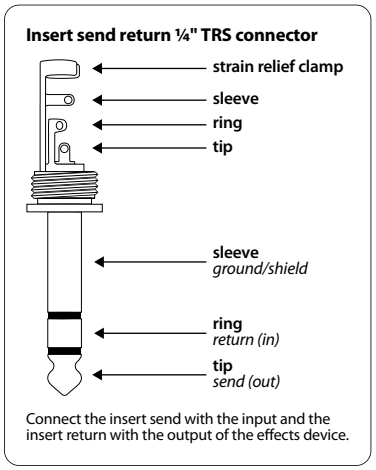


図. 5.7: インサートセンド / リターン 6.3 mm TRS ステレオフォンプラグ

JP

6. プリセット

エフェクト	解説	使用例
PARALLEL EFFECTS		
カテドラル	大きな教会の非常に密度が濃く長い反響音	スローな曲におけるソロ楽器やボーカル
プレート	初期プレートリバーブのサウンドをシミュレート	ドラム（スネア）とヴォーカル用の代表的リバーブ
コンサート	小劇場または大きなコンサートホールをシミュレート	「雰囲気」をつくりあげます
ステージ	ライブ用の非常に密度の高いリバーブ	キーボードパッドなどのサウンドを消します
ルーム	反響壁をはっきりと再現	目立たないリバーブエフェクト
スタジオ	サウンドに空間を加え、自然な鳴りを再現	より洗練されたミックスサウンドをつくります
小ホール	反響音の多い小さなホールをシミュレート	ドラム音の処理に最適
アンビエンス	中規模な部屋における後期リバーブを再現	多様性のあるエフェクトです
アーリーリフレクション	初期反射が強調された密度の非常に濃いリバーブ	ドラム、パーカッション、スラップベース用
スプリングリバーブ	代表的なスプリングリバーブを再現	非常に多様性のあるエフェクトです
ゲートリバーブ	全体がカットオフされるリバーブ	歯切れのよいスネアサウンドを生成
リバースリバーブ	徐々に音量が大きくなる逆パターンのリバーブ	非常に変わったヴォーカルサウンドを生成
コーラス	オリジナル信号を微妙に変調	ギター、ヴォーカル、ベース、キーボードなど幅広く対応
フランジャー	オリジナル信号にやや遅延した信号を加えることでうねるサウンドを生成	ギター、ヴォーカル、ベース、キーボードなど幅広く対応
フェイザー	位相ずれを発生させるもう一つのエフェクト	ギター、ヴォーカル、ベース、キーボードなど幅広く対応
ロータリースピーカー	電子オルガン用の代表的なエフェクトをシミュレート	オルガン / キーボード
ディレイ	入力信号を繰り返し生成するエフェクト	非常に多様性のあるエフェクト
コーラス & リバーブ	コーラスとリバーブの組み合わせ	ヴォーカル用の代表的なエフェクト
フランジャー & リバーブ	リバーブエフェクトとフランジャーの組み合わせ	幅広く対応
フェイザー &リバーブ	リバーブエフェクトとフェイザーの組み合わせ	幅広く対応
ロータリースピーカー & リバーブ	リバーブとロータリースピーカーの組み合わせ	オルガン / キーボード / エレキギター
ディレイ &リバーブ	リバーブとディレイの組み合わせ	ヴォーカルやギターに使用する最も一般的なエフェクト
ディレイ &コーラス	信号を拡大し、面白いリピートサウンドを生成	ヴォーカルミックス用。声の分かりやすさが伝わります。
ディレイ &フランジャー	ディレイ & コーラスと似てますが、うねり効果が聞き取れます	一風変わったサウンドの生成に最適です
INSERT EFFECTS		
コンプレッサー	小さな音を持ち上げ、大きな音を下げます	マイクからの単一信号用
エキスパンダー	ハムノイズなどの干渉ノイズを抑制します	単一信号用。特にマイク用に最適。
ゲート	特定した時間に信号を通すために開き、再び閉じます	フィードバックを起こしやすいマイクをコントロール / 干渉ノイズを抑制
ウルトラマイザー	コンプレッションパラメータを自動的に適用させる効率的なコンプレッションエフェクト	ミックス信号が一定のレベルに保たれます
ウルトラベース	サブハーモニックプロセッサー、ベースエキサイター、およびリミッターの組み合わせ	洗練したキーボードサウンドを再現 / エレキベース用のサウンド効果
パンナー	ステレオの左右両スピーカーを交互に行き交う効果	ラジオドラマなどの特殊効果用
エキサイター	信号にハーモニクスを加え、高音域と音量を持ち上げます	ミックス信号および単一信号両用。ヴォーカルパートを際立たせます。
オートフィルター	特定の周波数帯域をレベルによってブースと。エレキギター用のオートワウと類似しています。	DJ による使用 / ライブ用のサウンドエフェクト / エレキギター / エレキベース用
チューブディストーション	代表的なギターアンプのチューブディストーションサウンドを再現	エレキギター / ヴォーカル/キーボード
ギターアンプ	ギターアンプシミュレーション	エレキギター / エレキベース
ビニライザー	古いアナログ盤のヒスノイズを加えます	DJ 用 / ライブ用サウンドエフェクト
テストトーン	1 kHz のテストトーン	PA システムのレベル設定を容易にします

JP

7. 技術仕様

モノラル入力

マイク入力 (XENYX Mic Preamp)

タイプ	XLR 接続, フォンジャック, 別系統入力

Mic E.I.N.[1] (20 Hz - 20 kHz)

@ 0 Ω 入力インピーダンス	-134 dB / 135.7 dB 出力スケール
@ 50 Ω 入力インピーダンス	-131 dB / 133.3 dB 出力スケール

周波数帯域

<10 Hz - 160 kHz	-1 dB
<10 Hz - 200 kHz	-3 dB
増幅域	+10 dB から +60 dB
最高入力レベル	+12 dBu @ +10 dB ゲイン
インピーダンス	約 2.6 kΩ バランス
S/N 比	110 dB / 112 dB 出力スケール (0 dBu In @ +22 dB ゲイン)
歪み率 (THD + N)	0.005 % / 0.004 % 出力スケール

ライン入力

タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック, フォンジャック
インピーダンス	約 20 kΩ バランス, 約 10 kΩ アンバランス
増幅域	-10 dB から +40 dB
最高入力レベル	+22 dBu @ 0 dB ゲイン

フェードアウト減衰[2] (クロストーク減衰)

メインフェーダーが閉じている場合	90 dB
チャンネル音量を切っている場合	84 dB
チャンネルフェーダーが閉じている場合	85 dB

周波数帯域 (Mic In → Main Out)

<10 Hz - 90 kHz	+0 dB / -1 dB
<10 Hz - 160 kHz	+0 dB / -3 dB

ステレオ入力

タイプ	2 x 6.3 mm ステレオフォンジャック, バランス
インピーダンス	約 20 kΩ バランス, 約 10 kΩ アンバランス
増幅域	-20 dB から +20 dB
最高入力レベル	+22 dBu @ 0 dB ゲイン

CD/Tape In

タイプ	RCA
インピーダンス	約 10 kΩ
最高入力レベル	+22 dBu

イコライザ

EQ モノラルチャンネル

低域	80 Hz / ±15 dB
Mid	100 Hz から 8 kHz / ±15 dB
高域	12 kHz / ±15 dB
ローカット	80 Hz, 18 dB/oct.

EQ ステレオチャンネル

低域	80 Hz / ±15 dB
Low Mid	500 Hz / ±15 dB
High Mid	3 kHz / ±15 dB
高域	12 kHz / ±15 dB

チャンネルインサート

タイプ	6.3 mm ステレオフォンジャック, アンバランス
最高入力レベル	+22 dBu

AUX/FX Send

タイプ	6.3 mm モノラルフォンジャック, アンバランス
インピーダンス	約 120 Ω
最大出力レベル	+22 dBu

FX Returns

タイプ	6.3 mm モノラルフォンジャック, アンバランス
インピーダンス	約 10 kΩ
最高入力レベル	+22 dBu

サブグループ出力

タイプ	6.3 mm モノラルフォンジャック, アンバランス
インピーダンス	約 120 Ω
最大出力レベル	+22 dBu

JP

メイン出力 (XLR)

タイプ	XLR 接続 , フォンジャック
インピーダンス	約 240 Ω バランス, 約 120 Ω アンバランス
最大出力レベル	+28 dBu

メイン出力 (6.3 mm)

タイプ	6.3 mm ステレオフォン ジャック, フォンジャック
インピーダンス	約 240 Ω バランス, 約 120 Ω アンバランス
最大出力レベル	+28 dBu

Main Inserts

タイプ	6.3 mm ステレオフォン ジャック, アンバランス
最高入力レベル	+22 dBu

モノ出力

タイプ	6.3 mm モノラルフォン ジャック, アンバランス
インピーダンス	約 120 Ω
最大出力レベル	+22 dBu
Low Pass	可変, 30 Hz から 200 Hz, 18 dB/oct.

Phones/CTRL Room 出力

タイプ	6.3 mm ステレオフォン ジャック, アンバランス
最大出力レベル	+19 dBu / 150 Ω (+25 dBm)

CD/Tape Out

タイプ	RCA
インピーダンス	約 1 kΩ
最大出力レベル	+22 dBu

DSP

タイプ	Texas Instruments
コンバーター	24-bit デルタシグマ, 64/128 倍オーバーサン プリング
サンプリングレート	46 kHz

メインミックス ・ システムデータ[3] (ノイズ)

Main mix @ -∞, チャンネルフェーダー @ -∞	-100 dB / -102.5 dB 出力スケール
Main mix @ 0 dB, チャンネルフェーダー @ -∞	-82 dB / -85 dB 出力スケール
Main mix @ 0 dB, チャンネルフェーダー @ 0 dB	-72 dB / -75 dB 出力スケール

電源供給

消費電力	50 W
ヒューズ (100 - 240 V~, 50/60 Hz)	T 2.0 A H 250 V
電源接続	標準 IEC 電源コネクター

外形寸法および重量

SX2442FX

外形寸法 (高さ x 幅 x 奥行)	100 x 682 x 410 mm
質量 (正味重量)	8.6 kg

SX3242FX

外形寸法 (高さ x 幅 x 奥行) (高さ x 幅 x 奥行)	100 x 896 x 410 mm
質量 (正味重量)	11.0 kg

[1] Equivalent Input Noise

[2] 0 dBu あたり 1 kHz rel.、20 Hz ~ 20 kHz、ライン入力、メイン出力、ゲイン @ ユニティー

[3] 20 Hz ~ 20 kHz、メイン出力によるチャンネル 1~4 ゲイン @ ユニティー、サウンドコントロール ニュートラル、全チャンネル メインミックス設定、チャンネル 1/3 左端、チャンネル 2/4 右端レファレンス = +6 dBu

BEHRINGER 社は、最高の品質水準を保つ努力を常に行っています。必要と思われる改良等は、事前の予告なしに行われますので、技術データおよび製品の写真が実物と多少相違する場合がありますが、あらかじめご了承ください。技術仕様および外観は予告なく変更する場合があります。

We Hear You

behringer.com

behringer